

来週の市場とレート予想

	10/30 (月)	10/31 (火)	11/1 (水)	11/2 (木)	11/3 (金)
無担保O/N			△0.086%	~ 0.001%	
銀行券	ト ン	ト ン	ト ン	△ 1,000	
財政他	△ 12,400	ト ン	△ 2,000	△ 2,000	
資金需給	△ 12,400	ト ン	△ 2,000	△ 3,000	
主な要因	国庫短期証券発行・償還 (3M)			交付税特会借入・償還 普通交付税 法人税・消費税・保険揚げ	
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,400 CP等買入 △ 500 社債等買入 △ 100				
オペスタート	共通担保(全店) + 1,300	国債買入 + 7,400 短国買入 + 2,500 CP等買入 + 3,000			祝日
(日本)	日銀金融政策決定会合 (1日目)	日銀金融政策決定会合 (2日目) 日銀黒田総裁会見 基調的なインフレ率を捕捉 するための指標		マネタリーベース(10月) 営業毎旬報告 (10月31日現在) 保有する国債の銘柄別残高 国庫短期証券の銘柄別 買入額	
(海外)	米 個人所得・支出(9月)	米 FOMC(1日目) 米 消費者信頼感指数(10月) 欧 ユーロ圏GDP(7-9月) 欧 ユーロ圏CPI(10月)	米 FOMC(2日目) 米 ADP民間雇用者数(10月) 米 ISM製造業景況指数(10月)	米 新規失業保険申請件数 (前週分) 米 ハウエルFRB理事講演	米 雇用統計(10月) 米 貿易収支(9月) 米 ISM非製造業景況指数 (10月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.050 ~ △0.025
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.040
SPOT 3M	△0.020 ~ 0.050
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.080

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、368兆1,700億円 で始まった。25日には国債買入等により370兆1,300億円まで増加し、26日に369兆6,000億円、27日には370兆7,500億円となり越週した。無担保コールON物金利は、地銀業態・証券業態を中心に、やや調達意欲が強い地合いとなり、週を通して△0.05%~△0.03%を中心に取引された。同加重平均金利は週を通して△0.042~△0.039%のレンジで推移した。ターム物は、1W~3Wのショートタームを中心に△0.04%台~0.03%台での出合がみられた。日経平均株価終値は23日に2万1,696円65銭、24日には2万1,805円17銭と、先週に引き続き16日続伸し、連騰最長記録を更新した。その後26日に低下したものの、27日には2万2,008円45銭となり、1996年7月5日以来の高値水準となった。来週は、国内では日銀金融政策決定会合(30日~31日)、海外ではFOMC(31日~1日)、米国雇用統計(3日)などが予定されている。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.000
TDB 3M	△0.170 ~ △0.250
現先(on/1w)	△0.100 ~ 0.000

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆1,000億円で、週間償還額の約1兆円(金融機関・ABCP除く)をやや上回った。月末日の発行は、償還額を下回り約6,000億円にとどまったものの、幅広い業種からの発行案件が確認された。発行レートは、ほぼ横ばい推移となっており、浅いマイナスから0%近辺での出合い。26日にオファーされたCP等買入オペ(10/31スタート、3,000億円程度)は、足切レート△0.004%と前回比+0.001%上昇した。来週の償還額は、3,000億円程度となっている。期落ちを迎える企業の継続発行が見込まれるため、新規発行を加え償還を上回る発行が予想される。発行レートは、投資家の運用ニーズ強く、引き続き浅いマイナスから0%近辺での推移を予想する。現先レートは、△0.100%~0%程度の出合いで、横ばい圏内での動きであろう。

<TDB>

26日に行われた国庫短期証券3M第717回債の入札は、最高落札レート△0.1898%(前回債△0.1861%)、平均落札レート△0.1961%(同△0.1924%)と前回債からレートがやや低下した。週末のセカンダリー市場では、3Mが△0.20%程度、1Yが△0.18%程度で出合が見られた。来週は11月1日に3M物の入札が予定されている。

<レポ>

足許GCは週初△0.10%近辺から始まり、以降も同水準で推移。TDB3Mの発行日である30日受渡しもレートの上昇は見られず、△0.10%を挟んだ出合いが中心となった。月末取引となる31日受渡しは、S/Nでの資金調達を手控える動きが見られ、△0.20%台前半~半ばの出合いをつける展開となった。SC取引では10年348回債の引合いが週を通して多く見られ、金曜日の輪番オペ後には△0.40%台半ば~△0.50%近辺で多く取引された。10年347回債も週末にレートが低下。△0.40%台前半~半ばの出合いが見られた。その他2年377・380・381回債、5年131・132・133回債、10年336・338・340・341・342・343・345・346回債、20年162回債、30年55・56回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。